

# U A E L

No. 7  
2012.5

URBAN AMENITY ENGINEERING lab.



2. 巻頭言

3. 学外活動

4-5. 修士・卒業論文  
卒業設計

6. 学科ニュース

7. 昨年度の活動  
先輩から後輩へのメッセージ

8. 情報かわら版

都市アメニティーの輪を広げる  
ニュースレター第7号

「パリのマルシェにて」 撮影：山口邦雄





## 今を生きる

4月21・22日に「こども環境学会」の大会が仙台国際センターで開催された。こども環境学会のメンバーは誰もがエネルギーで諦観が全くない。つまり過去を悔やんだり未来を不安がったりという囚われの気持ちがない。常に今を生きることに全力だ。子供の前ではそう振る舞うという意味でなく大人同士のときも何も変わらない。

私達は、ともすれば今を生きていないときがある。どうせ一人で出来ることは小さいから頑張っても仕方ないし、若い頃みたいに覚えられないし、身体は動かないし、今すぐしなくても後でやればいいし、もっと自信がついてからやろう、もっと効率の良い方法が見つかってからやろう、失敗がこわいから置いておこう…などなど。

一方で、こどもにとって今この瞬間はあそび・学び・成長していくかけがえのない瞬間だ。今年の一年間はこどもには二度と戻ってこない一年間。こどもを相手に仕事をする人達は、こどもが生きる「今」を大切にしなければ、職務を全うできない。だから、大人の事情で物事を先送りせず、常に今できることに全力を注ぐ。

例えば、福島のある幼稚園は、放射能の影響で外あそびが出来ない子供達のため屋内に砂場やプールを作った。園庭は除染したため土がはつられ殺風景だったが、子供達にとってこれが思い出の風景では可哀想だと外に出られなくても緑の庭を再現したそうだ。

もう一つ大きな学びがあった。こどもにやる気を出させるコツは「役割を与えほめること」だけだと言う。自戒を込めて言えば、たったそれだけのことすらやらないで、最近の若者は積極性がないとぼやいているのが、私達大人の大半ではないだろうか。

余談だが、「役割を与えほめること」を競うように徹底してきた業界が一つある。それは「テレビゲーム業界」である。テレビゲームは3秒間に1回、ユーザーを褒めているそうだ。言われてみれば確かにそうだ。子供がゲームに夢中になるのは褒められ、認めてほしいからと言える。



浅野 耕一（あさの こういち）  
建築・都市アメニティグループ  
都市アメニティ工学分野

## 地元、本荘中心市街地の再生

### ●5年間の蓄積

秋田県立大学に来て、はや5年間で過ぎた。我々の建築分野の責務は、究極的にはモノづくりを通して社会の発展に寄与することであり、とりわけ都市・地域計画においては、実際に良好な建築・都市空間の形成・保全が図られてこそ存在意義がある。研究室あげての夏期集中研究もその一環として取り組んでおり、一昨年鹿角市「関善賑わい屋敷」を素材にした集中研究では、歴史的市街地の再生に寄与すべく登録有形文化財の修復作業を行い、周辺を含めた再生構想も立案した。街並み班のサイン計画の提案が引き金となり、中心市街地の要所にサインが設置された、と先日のTVは報じていた。まずは報告しておこう。

### ●民・官・学による再生計画の決定！

さて、私個人としては、2010年から本荘中心市街地の都市計画道路「大門・本町通り」の拡幅整備と沿道の空間形成の課題に取り組んできた。地元住民から道路の拡幅要望書が知事と市長に提出されていたが、要望だけで都市計画が動く時代ではない。厳しい財政状況の中で、いかに行政投資を整備効果に繋げるかの計画が不可欠である。幸いというか、「まちづくり協議会を設立すべし。」とする私の提案に地元の地権者が「打てば響く」かたちで応えてくれたため、どっぷり浸かることとなった。段階的アンケートの設計・分析、すべての地権者への個別ヒアリング、さらに拡幅後の沿道空間像を議論するための1/250模型を制作して支援した。地権者はもとより、県地域振興局の職員、秋田市在住の建築家・都市計画家も加わった民・官・学のハイブリッド協議会で、本荘初の本格的「まちづくりW.S.」を展開したのである。そのかいあって、都市計画道路は商店街にふさわしい18m幅員に縮小変更し、沿道景観形成に向けた建物誘導として「地区計画」をこれもまた都市計画決定するという実績は4月に得た。さらに、色彩やデザインの細かな部分は「まちづくり協定」によって調整していくとするまちづくり委員会もスタートした。

### ●再生は前へ

駅前には、文化複合施設「カダーレ」が12月にオープンした。本荘中央地区の土地区画整理事業も本年度中にすべてが終わる、そしてその先には由利橋の美しい姿が来年春には姿を表す。これに加え、その中間に位置する大門・本町通りの拡幅整備と沿道空間形成が進めば、本荘中心市街地の目鼻立ちはクッキリとなるだろう。再生の取組みは、着実に前に進んでいる。



山口 邦雄（やまぐち くにお）  
建築・都市アメニティグループ  
都市アメニティ工学分野

## 卒業修了展の報告



2012年2月18日から19日の2日間、都市アムニティ研究室の第4回卒業・修了展が秋田市民交流プラザ「アルヴェ」のきらめき広場で行われました。

都市アムニティ研究室の日頃の研究成果や卒業論文、卒業設計、更には学部3年生の設計課題にいたるまで、市民、行政、研究者の皆様にご覧いただき、それに基づいて今後の街づくりについて広く議論する場として開催しました。

展示内容としては、卒業論文2点、卒業設計4点、修士論文1点その他に教員研究、都市アムニティ研究室夏期合宿ポスター、学部3年生の設計ポスター多数の展示がありました。

卒業・修了展開催への準備は前年の計画や反省点をもとに、学生と教員で打ち合わせを行い、ポスター印刷の時期や作品運搬、人の動きなどを決定し、当日の会場設営は学生皆が協力し、積極的に動いていました。運営はスムーズに行われ、会場を見て足を止めてくださる方も多く、作品を見てくださる方々とのコミュニケーションは私たち学生にとって良い発表・説明の場となりました。学生が研究内容や作品について学外の

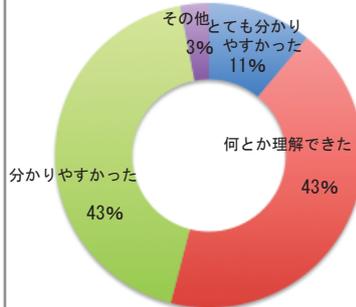
方々とお話できる機会は少ないことので、このように外へ向かって発信・行動していくと同時に、来ていただいた皆様の貴重なご意見を大切にしたいと考えています。

卒業・修了展は今年で4度目ということで、まだ市民の方へのPRが弱いと感じました。今回得られた経験と反省を活かし、より多くの方に来ていただけるよう努力していきます。本ニュースレターをご覧の方も、お時間がございましたら来年度の卒業・修了展にご来場いただければと思います。

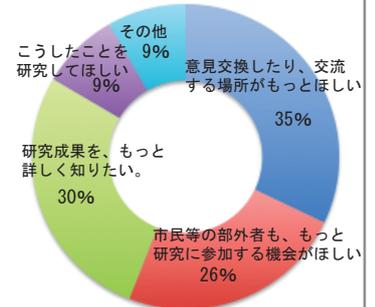
[学部4年 郷内 陽平]

### アンケート結果

(1) 全体を通して研究の内容は分かりやすかったですか？



(2) こうした展示に関連し、何を希望しますか？



貴重なご意見ありがとうございます！  
来年度へ向けて、参考にさせていただきます。

## まちづくりと信託 都市アムニティサロンの報告より

信託は不動産の名義を移し、形式的な所有権移転を行って、運用能力のない所有者の手から運用能力のある信託会社に財産を転換する仕組みである。

これまで、信託銀行が信託の受託者として機能していたのであるが、信託法の大改正により、信託営業の門戸は広く社会に広げられた。ただし、人の財産を名義ごと移転してその不動産の命運を任せるのだから、受託者はとほょうもない責任を負うことになる。したがって、そんじょそこらの人間がおいそれと信託会社を開くことはできない。

だが、地域が信託を利用して再生するべき時はすでに来ている。にもかかわらず、信託に関して誰も発言しないのは、信託に対する知識不足が原因と思っている。この仕組みを「まちづくり」に利用しない手はない。その必要性を列挙して、都市計画やまちづくりに関係する人々の意識を変えていきたい。

### ①信託は所有と利用を分離できる

登記原因「信託」で所有権が移転され、あとは受託者とその不動産を活用し、利益は受益者に還元される。

### ②所有権移転なのに不動産取得税がかからない

現物不動産の所有権移転ではなく、信託受益権という債権の移転であるため課税されない。不動産取得税は高額であるので、開発する側のキャッシュフローを傷める。

### ③収益を生む財産ならほとんど信託できる

動産でも、風車のような構築物でも、鉄道でもなんでも、収益が生まれるものなら信託できる。

### ④軽いSPC

信託を使うと多数の投資家から資金を集める場合に制約となる「不動産特定共同事業法」の適用がないことから、事業主体に軽いSPCを用いることができる。

### ⑤信託法による財産の保全

信託法により信託財産は関係者の倒産や強制執行から遮断され、財産としての独立性と安全性が固く守られる。

以上のような信託の特性を上手に使い、広く薄く地元で資金の出所を見だし、リスクマネジメントされた財産に銀行のノンリコースローンをつなぐことで、思わぬ「まちづくり」が実現するのである。これはまちづくりの実践において知っておくべきものである。

再開発ビルの「出口」に、老朽化したビルの建て替えに、広大な空き地の活用、高齢社会の財産活用手法に、アーケードの再建に、無理だと思ったプロジェクトを可能な企画に。

「地元で信託会社を創ろう」。これが不動産鑑定士としての私の一つのゴールである。

特定非営利活動法人

秋田県公的土壌評価支援機構

理事長 白沢 啓 (不動産鑑定士・不動産カウンセラー)

# 平成23年度の修士論文・卒業論文・卒業設計

## 修士論文

立花 葵 「居住空間LCAの一環としての私的交通エネルギー消費量の推計に関する研究」

## 卒業論文

伊藤 正太 「観光まちづくり地における観光客と地域住民の違いによる景観の評価傾向と来訪意向に関する研究」  
-秋田県仙北市角館中心市街地を対象として-

小笠原 聡美 「公営住宅における高齢者から見た居住環境の評価に関する実態調査」  
-由利本荘市に立地する1990年以前と2001年以降建設の住宅および他市シルバーハウジングの比較から-

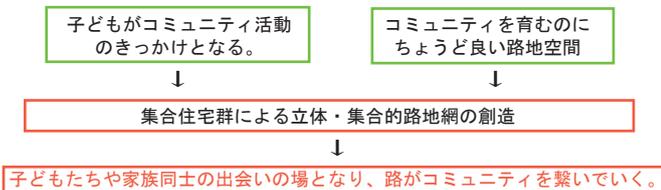
## 卒業設計

- 大塚 洸 「ぐるぐるのぼーっ」
- 北村 絵梨奈 「檸檬」
- 木村 洋子 「たまゆらの雪丘」
- 佐藤 直樹 「こどもの捷路、ところにより…」

ここで、修論・卒論・卒計を代表して、立花さんと伊藤さんの論文と、佐藤さんの卒業設計を紹介します。

### 「こどもの捷路、ところにより…」 佐藤 直樹

#### ★コンセプト★

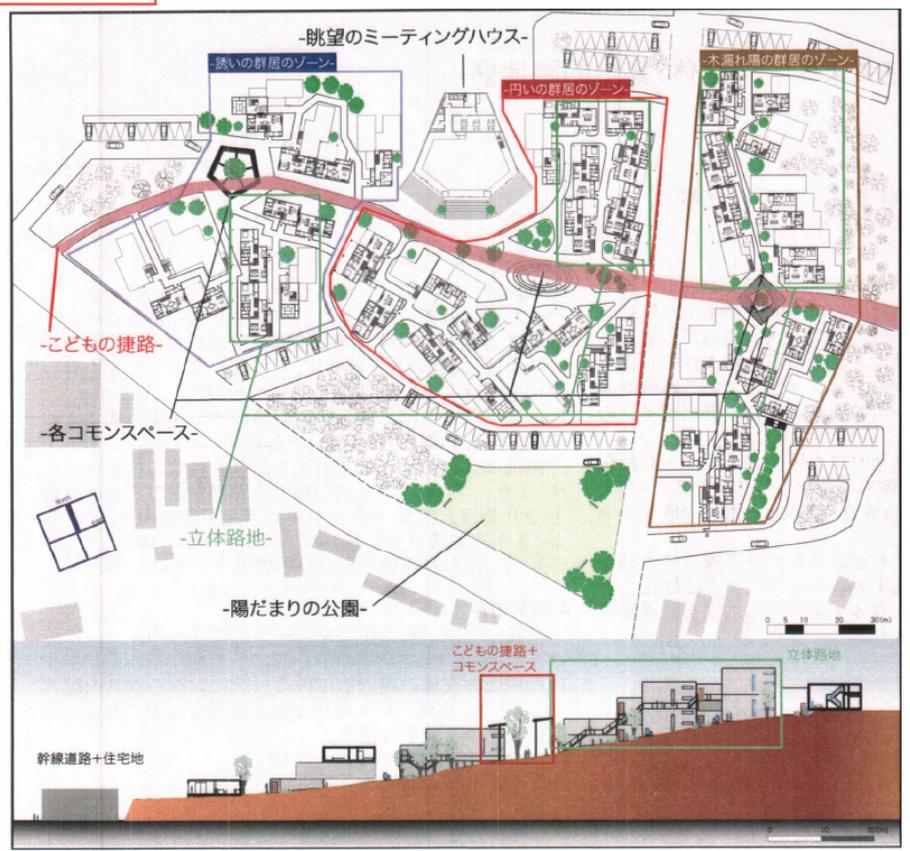


誘いの群居のゾーン



こどもの捷路

「こどもの捷路を中心として、路地が重ね合わせられ、そこが「出会いの場」や「遊び場」となる



1階平面図・配置図とa-a' 断面図

1. 目的

近年、化石燃料に依存しない低炭素社会への移行の動きが見られる。地方自治体による低炭素社会の実現を推進するため、実情に合った施策を検討する評価システムが必要である。個人情報等の調査が大規模で費用も係るため、自治体のもつ情報と統計等から現時点での試算と将来推計ができることが有効である。住宅と私的交通を組み合わせた居住環境ごとにエネルギー消費量推計する手法の検討が求められる。

本研究では、自治体のもつ情報と統計等から私的交通エネルギー消費量を推計する方法の基礎的検討として、世帯の個人属性と交通移動の関係を明らかにすることを目的とした。

家庭での維持管理が可能な交通手段を対象とする



図1 対象とする移動手段

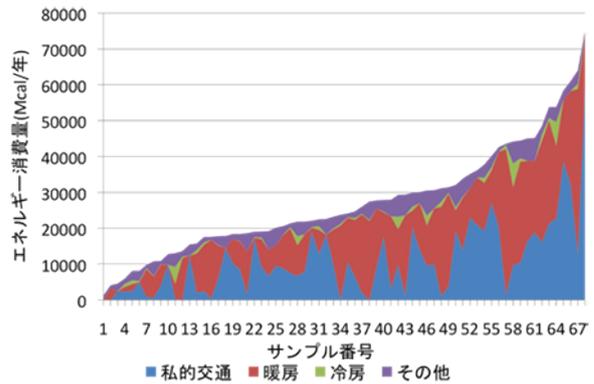


図2 家庭エネルギー消費量の推計結果

2. 結果

- ・由利本荘市本荘地域の戸建て住宅を対象に家電/私的交通手段の利用状況についてアンケート調査を行い、生活実態の把握をした。
- ・1世帯の年間エネルギー消費量を私的交通と家電等の使用状況のアンケート結果をもとに推計し、私的交通エネルギー消費量が世帯でのエネルギー消費量のうち半分程であることがわかった。
- ・回答結果から、個人属性とトリップ属性による行動特性から、私的交通手段の利用可能性考察した。
- ・将来の世帯および地域の私的交通手段エネルギー消費量の推定に関して、四段階推定法を利用した方法を検討した。

「観光まちづくり地における観光客と地域住民の違いによる景観の評価傾向と来訪意向に関する研究」-秋田県仙北市角館中心市街地を対象として-

1. 目的

本研究では、対象地域空間の景観に着目し、観光客と地域住民の景観の評価傾向の観点から調和の実態を明らかにすると共に、提示する情報の相違による観光客の来訪意向変動の分析から地域住民・地域空間・地域経済(観光客)以上三者の有機的關係について考察することを目的とした。

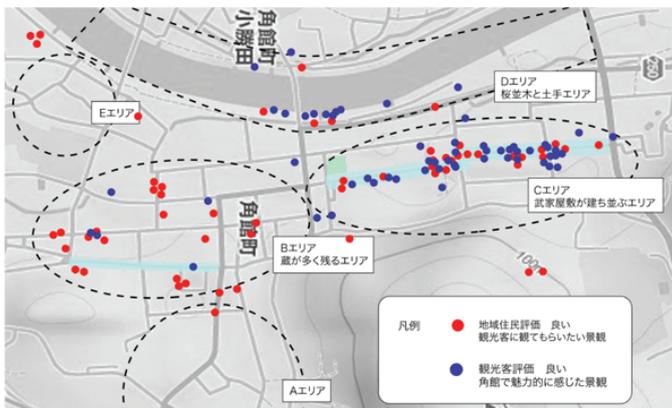


図1 属性別の選好景観の評価地点分布

エリア名		A	B	C	D	E	範囲外
評価数	観光客	×	6 (11)	37 (69)	11 (20)	×	×
	地域住民	×	24 (42)	23 (40)	5 (9)	3 (5)	2 (4)
評価地点の分布			乖離	一致	乖離	乖離	
再来訪意向平均値			4.2	3.7	4.2		

( )内の数字は各エリアに占める割合(%)

表1 エリア別の評価数・評価地点の分布・再来訪意向度平均値

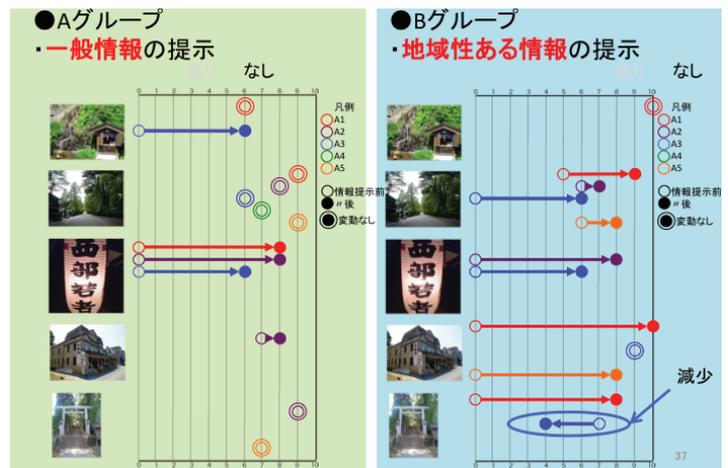


図2 提示情報の相違による来訪意向度の変動図

2. 結果

「観光客に観てほしい」といった地域住民から発信される地域性豊かな情報が、観光客にとって魅力的且つ有益であり、来訪意向の向上に寄与する可能性を示した。

以上ことより、三者の有機的關係を築くには地域住民がもつ「地域性豊かな情報とその発信」が構成要素として重要だと結論づけた。



はじめまして、4月より都市アメ研の仲間入りするようになりました。栃木県宇都宮市からここ由利本荘市に移動しまし

たが、4月上旬というのに雪が真横に降るなど、寒さと風の強さにとても驚きました。覚悟はしてきたものの、無事に冬を乗り切ることができるかとても心配です。皆さん、雪国の過ごし方をいろいろ教えてください！

これまでの研究テーマは、「子どもの居場所づくり活動における地域施設の利用」と「小学校の環境教育における学校と地域の環境資源の利活用」です。子どもの頃、近所には林や田など田園風景が広がっていました。また、私が通っていた小学校は木造校舎で、でこぼこつるつるで所々修復のために色が違う板がはめこまれた床や開閉にコツがいる扉、すり減り何度もペンキを塗りなおされた手すり、何十年前に刻まれたらくがきなど、古かったけれどそうして歴史的に人の手が加わってきた校舎が大好きでした。しかし、徐々に

林は伐採され、田はコンクリートになり、校舎はひんやり整然としたRCになりました。しかし、広くきれいになった校舎も児童が減ったことで使わない部屋が出てくるなど、子どもながらに違和感がありました。大学に入って建築を勉強するうちに、建物や田、畑など自然を良好な状態に保つためには、人の手が入り続けることが必要なことがわかってきました。そのため、それら地域資源を人間にとって住み心地が良い状態に維持し続ける方法を探るために、場と人の活動との関係について研究してきたのです。そしてこれからも引き続き、学校施設を中心として地域施設や里山など自然について、教育活動や地域活性化にむけた活動での利活用について探求していくつもりです。

学生の皆さん、大学生は社会人になってからできないことがたくさんできる時です。私の学生時代の反省から、どんなに小さなつまらないことでもいいので、どんどん好きなことをやってください（道徳的に許される範囲で）。何かあったら参加してみてください。そしていろいろな人に会って、いろいろな人を見て、学んでください。私もまだまだ学ばねばならないことがたくさんあります。一緒に楽しみながら、共に成長していけたら嬉しいです。どうぞこれからよろしくお祈りします。

渡辺真季 助教  
計画学講座

苅谷先生から一言

東京都庁がどうしてノートルダムになったか

東京都庁舎の9社による設計コンペが始まったのは11月ころであった。その頃私は、総合大学のプロジェクトでサウジアラビアに居たが、同様に丹下事務所のスタッフの多くが、世界各地に派遣されていた。

12月の年末、丹下先生は、スタッフ全員を、東京に集め、都庁のコンペ以外の仕事を全てストップした。その時点で、1/500のマス模型と、スーパーフレーム構造の採用がほぼ決まっていた。そして、スタッフのチーム編成を新たにやり直した。私はエレベーションのスタディチームに配置され、早速トレペにダーマトグラフィでスケッチを始めた。正月休みは例年通り全員でとり、正月早々にスタディを再開した。早速、丹下先生がやってきて、正月最初のスタディのチェックを始めた。私のところへやってきた先生は、私のスケッチの前に座り「やっと1枚でてきましたね」と皆の前で言った。それは、1/500のマス模型とスーパーフレーム構造を重ね合わせた上に、丹下先生に連れられて見たパリのノートルダムを重ね合わせたものであった。その翌日、サウジアラビアの砂漠の砂で乾燥したためか、自然気胸になってしまい、2週間入院することになった。退院してすぐ事務所に出勤すると、江戸の格子と大阪の吉村邸の天井パターンで覆われたパリのノートルダムの模型がほぼ出来上がっていた。エレベーションチームに戻った私は、それを、丹下流の黄金比の木割りに調整しながら、コンペの提出図面の何枚かを仕上げた。その後、



国際会議場部分とエントランスホールをつなぐ、基準階にないコア

の調整をしたり、都市レベルでの計画に携わったりして締切を迎えたわけである。

その後20年以上がたち、丹下先生がなくなる前に、最後の作品集が新建築社から出版された。そこにコンペの正月休みに帝国ホテルに宿泊していた丹下先生のハイテックポイントによるスケッチなるものが発表された。それは、やはり、パリのノートルダムのようなスケッチであった。「やっと1枚でてきましたね」と言ったのは、既に数日前に丹下が自ら描いていたスケッチが、独り合点でなく、他の人の目にも読み取れる解釈だと言う事を知って、思わず出た一言であったようである。一見丹下先生は、作業の進展を見届けているばかりと思わせていて、自らのイメージへとスタッフを知らず知らずのうちに誘導していたのであった。

苅谷哲郎 教授  
計画学講座

## 昨年度の活動 2011.4-2011.3

### 2011.9 夏期集中研究 旭町防災まちづくり



由利本荘市の旭町で旭町防災委員会の方達と共に避難・安否確認訓練を行い、その後ワークショップなどを通じて防災まちづくりを進めました。主な内容としては、太陽光で調理を行う「ソーラークッカー」、いざというときに組み立て可能な「ダンボール間仕切り」の提案、「防災マップ」の作成、まちの将来像を住民の方が考える「デザインゲーム」を行いました。

### 2011.10 3年生加入!

工藤・郷内・佐藤・森下・山北の5人の11期生が新たに加入しました。都市アメをさらに盛り上げて行くべく、頑張ります!

### 2012.2

### 都市アメニティ研究室卒業修了展



3年生が主体となって行う初めての行事でしたが、卒業生の積極的な協力もあって、無事に終えることができました。

当日は多くの市民の方に見て頂き、また他の研究室の先生がいらしたり、先輩OBが来て下さったりと、とても賑やかな様子でした。

こういった活動を通し、都市アメと市民の方々の交流をさらに深めていきたいと感じました。

### 2012.03 そして卒業・・・

学部生、院生がそれぞれ卒業を迎えられました。研究はもちろん、沢山の行事を主体となって進められてきた先輩方・・・

みなさんとても優しく、時に的確なアドバイスも頂きました。そんな優しい先輩方の後輩になって、とてもうれしかったです。

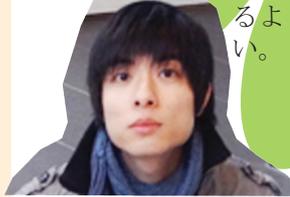
私たちも、後輩にそう思ってもらえるような研究室をつくりたいと考えています。

尊敬の気持ちと感謝の気持ちでいっぱいです。(淋しさも一杯です...) 今まで本当にありがとうございました!

## 卒業生から後輩へのメッセージ

都市アメは色々分担・イベントがあり大変ですが、快適に過ごすには不可欠なものだったり、経験を積める良い機会です。

僕は、都市アメでの生活はメリハリがあつて楽しくとても有意義に送ることができました。皆さんも後輩へのメッセージを書いている頃にそう思うよう頑張ってください。



伊藤 正太  
首都大学東京  
都市環境科学研究科  
観光科学域

卒業研究・卒業設計は大切です。しかし、この時期はもう大学生活のラスト。なので、周りの友達と楽しく遊んでください。卒業後、秋田から出て行ってしまふ人達は色々な所へと出かけ、秋田の思い出を増やしてください。

残り少ない大学生活、悔いの無いものにしてください。



大塚 洸  
日本工学院  
八王子専門学校  
クリエイターズカレッジ

自分の研究で壁にぶつかったり、収集がつかなくなったりした時は、正直に先生に相談してみるといいと思います。

都市アメはいろいろな行事があります。一生懸命に取り組んで、達成感を味わってください。ゼミ生と切磋琢磨し、研究も頑張ってください。何より、楽しんだ者勝ちです(笑)。

### 小笠原 聡美

央2株式会社  
アールツーホーム



都市アメは他の研究室よりもゼミも多いし公的なイベントも多いしと、忙しいです。その忙しいの中でやってきたことは決して無駄にはならないと思います。投げ出さず、挑戦していきましょう。

悔いの残らない大学生活を!

反省はしても後悔はしないように! 研究に遊びに頑張ってください。

### 木村 洋子

㈱サイトーホーム



毎日目標を決めて行動すると思います。スケジュールに沿って卒業設計を進めていくためにTO DOリストを作って、それだけは確実に実行するようにしました。

卒業設計に詰まった時は、代々先輩方の後悔、成功例をもとにした思いの詰まったメッセージを読み、アドバイスを得ることも手だと思えます。

### 北山 絵梨奈

㈱間宮農一千  
デザインスタジオ



大学4年生の1年間は本当に密度の濃い1年になると思います。都市アメは、建築学研修・卒業設計はもちろん卒展・合宿に加え日々の係の仕事など、なかなかやることは多いです。しかし、1年経つと自分の中には充実感が残っています。やりきったと言えるような1年を過ごして下さい。



### 佐藤 直樹

日本住宅株式会社  
仙台支店

研究を振り返ると、なかなか上手く出来なかった点やこれは取り組んでよかったと思うところなど沢山浮かびました。先生方、後輩の皆さん、いろいろな意見や質問/ご指導/ご協力を頂き、ありがとうございました。都市アメの後輩を育てるため、今後も研究と研究室活動を頑張ってください。

### 立花 葵

秋田ハウス株式会社  
本社 公務課



[計画学講座]

先輩方大変お世話になりました!  
ご卒業おめでとございます!!



ホームページで毎週のゼミの様子を公開中!!

<http://www.akita-pu.ac.jp/system/aes/amenity/>

(検索サイトから“都市アメニティ工学研究室”で検索)

OB・OGS

第7回は卒展に来て下さったこの方です!

## 4期生 渡辺高志さん



こんにちは。

都市アメ 4期生の渡辺高志です。本誌を拝見していつか回ってくるかななんて思っていたら早いもので、ありがたく寄稿させていただきました。

私は現在、東京の建設会社で、施工管理の仕事をしています。施工管理はたいへん苦勞の多い仕事ですが、実際に建物を造った職人全員の顔を知っていて、お客さん以上に建物の隅々まで知り尽くして、点検でお客さんが建物を大事に使っているのを見る時は本当にうれしく思います。建物を建てる過程には、膨大な数の人が絡んでいて、いろんなドラマが詰め込まれています。

お客さんの要望も様々です。保育園の現場を担当した時は、引渡し後もさまざまな要望があり、対応していくうちに、保育所の業務がどんなものであるか、かなり詳しくなっていました。

逆に言えば、使う人のことをよく知らないと、いい建物はできないと実感しています。建築はほんとうに、思いやりの塊だと思います。

実はこのような機会を頂いたのは、たまたま出張で本荘に滞在中、都市アメの卒展を訪れたことがきっかけです。社会人になって卒業研究・設計を見てみると面白いですよ。出展していた後輩達も、本当に苦勞したんだと思うと胸が熱くなりました。東京にいる時は忘れがちでしたが、本荘という場所は、卒業後も特別な場所であり続けます。第二のふるさとがあるのは本当にありがたいことです。

最後に学生の皆さん、勉強はしすぎるといことはありません。物事の背景を知ろうとすると、世の中のいろんなことに、感動ができるようになります。一分なりとも夢があるならば躊躇することなく突き進むのも良いと思います。誰だって先のことは分からない、臆病なんですから、臆病なりに一歩踏み出すつもりで、がんばっていきましょう!

- 4月 ・入学式
- 5月 ・本誌発行
- 6月 ・計画学講座合同ゼミ
- 7月 ・夏のオープンキャンパス
- 8月 ・建築学研修発表会  
・三年生配属
- 9月 ・夏合宿(夏期集中研修)

## 編集後記

新たに都市アメがスタートし、1ヶ月が経ちました。先輩方が卒業され、研究室も少し淋しくなった都市アメでしたが、徐々に環境にも慣れてきました。

今後も、都市アメ研究室として、尚一層活発に活動するよう努力し、学校の内外へ活動の成果を発信して行きたいと考えております。今後ともよろしくお願ひします!

2011.5.16 NL 編集部

工藤美紗子 山口邦雄 渡辺真季



UAEL 編集部

〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4

秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科

電話：0184-27-2053 mail：yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp

担当 山口 邦雄

## OB・OGの皆様へ

都市アメからのお願ひです。ぜひぜひ、OB・OGのコメントへご協力お願ひします。連絡は山口まで。

山口先生が昨年度に引き続き、就職委員となりました。OB・OGの皆さん、就職ガイダンスで「先輩に聞く就職活動と企業状況」という企画がありますので、来校可能な方は是非ご協力下さい。